

2014年8月8日  
石油化学工業協会

## 石灰石鉱業協会における保安講演会の開催について

7月25日(金)に当協会の岩間技術部長が石灰石鉱業協会にて「石油化学工業における保安向上の取り組み(業界団体としての観点から)」について講演を行った。

石灰石鉱業協会は石灰石、ドロマイト、けい石鉱業などの非金属鉱業を営む89社から構成される事業者団体であり、主だった会員21社からなる保安委員会で保安、安全に関する活動を展開している。一方、石油化学工業協会では、全会員が加わる保安・衛生委員会にて、経験の共有化や情報の共有化などの保安向上のための業界活動を積極的に行っている。

このため、石油化学工業協会の業界団体としての活動や考え方が鉱山保安にも生かせるとの考えから、経済産業省化学課経由で、当協会に保安関係専門家による講演の要請があり、講演が実現したものである。

当日は、東京在住の保安委員会委員16名に加えて事務局5名の合計21名が参加し、スライドを使って約1時間半の講演が行われた。講演後には、情報の共有化を行う秘訣などに関して活発な質疑応答が行われた。

(講演内容)

石化協では、従来から保安の基礎である安全文化の強化に取り組んでいるが、2011年から2012年に会員企業の事業所で3件の大規模な爆発火災事故が発生し、それぞれ1名の方がお亡くなりになった。これらの事故は、いずれも、本来、制御していなければならない反応が暴走した結果、機器が破裂し、内容物に引火爆発したものである。

これらの事故は、あつてはならない暴走反応が原因であるため、事故の背景、間接的な原因について徹底的に討議を行い、(1)保安に関する経営層の強い関与、(2)非定常時のリスクアセスメント、(3)他者での事故情報の活用、(4)Know-Whyの伝承・教育の四つの課題を抽出した。

本講演では、これらの課題と安全文化の強化を組み合わせた(1)経営層の関与の強化、(2)学習伝承(情報の共有化、経験の共有化、取り組みの共有化)、(3)動機付けに関する業界活動について事例を交えながら具体的に紹介が行われた。

また、これらの活動を産業安全に関する行動計画として2013年7月に公表し、2014年6月に実績等に基づく見直し版をまとめ、公表されていることが説明された。

以上